



学校創立143周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和4年12月15日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ りぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校

どう考えるだろう・・・

校長 井上 泉

いつしか、小さな道を歩くとき車がきても僕は少しよけるだけで、道路の端っこぎりぎりを歩くという事は絶対しなくなっていた。それがふつうだと思えるようになっていたし、当たり前だとも考えるようになっていた。なぜなら、自分と同じくらいの中学生在が、そうしているのを街でよく見かけようようになっていたからだ。

8月も半ばを過ぎた頃、僕はちょっとした用事である高校の裏にある小さな坂道を歩いていた。ちょうどその日、その高校は休みだというのに補習のようなものがあったらしく、学校帰りの高校生が僕の前後にたくさん歩いていた。

坂道を上り終え、平らな道路を歩いていると、後ろから車の音が聞こえてきた。その音はだんだんと大きくなり、いよいよ僕の横を通るときがきた。が、やっぱり僕は車をよけない。それが当たり前だと思っているから・・・。ところが、前にいた20人くらいの高校生が、今まで2列3列になっていたのに、車が近づくとぱっと縦1列になり、道路の端っこを歩いているのだ。それがそこにいる高校生だけではない。ずっと先のそのまた先の高校生までもが、全員そうやって車をよけているのだ。このことから考えると、おそらく、僕の後ろにいた高校生の全てがそうやって車をよけてきたにちがいない。その中で僕一人だけが、車をよけずに堂々と歩いてきたのだ。そう考えると恥ずかしくてやりきれない気持ちになった。

今までは小さい道路で車にあっても、よけないでいいという考えであった。その根本的な考えは、自分と同じくらいの中学生在がそのようにしているからと言う、ただそれだけの考えであった。それでは高校生・大人・お年寄り・小学生、その人たちは車をよけていないかと聞かれると今までの自分は「はい」と言ったかもしれない。しかし、今の自分はそんな事は絶対に言えない。なぜなら、僕が知る限り自分以外の人ほとんど車をよけているからだ。

いつから車を避けなくていいと思うようになったのだろうか。それはおそらく中学生になってからだと思う。中学生になって、変な意地っ張りみたいなのができてまわりから、ちょっとでもかっこよく見られたいと思うようになって、こんな結果になってしまったのだと思う。自分のその姿をあの高校生はなんと思ったのだろうか、車の運転手はどれくらい運転がしにくかったのだろうか。そう考えると再び恥ずかしさがこみ上げてくる。

自分ではかっこよく見せるためにそのような行動をとったのだが、まわりの人から見ると単なる迷惑行為で、誰一人としてよくは見てくれなかっただろう。これからは、まわりからかっこよく見られるようにするのはではなく、感謝されるように努力していきたいと思う。それが本当のかっこよさだと思うから・・・。



～ある中学1年生の作文より～



まもなく、令和4年が終わります。今年も新型コロナウイルスのため、制約を余儀なくされたものもありました。しかし保護者や地域の方々のご理解やご支援をいただきながら、また、子どもたちと先生方と創意・工夫しながら、行事などを実施してきました。見方を変えれば、「いつもどおり」から新鮮な行事の実施につながったのかもしれない。従前通りに近づけつつも、対策・工夫をこらし、さまざまな活動ができる年にしたいものです。皆様、よき年末年始をお迎えください。

良いお年を 